

「大竹の夜を彩る工場夜景。撮影スポットを紹介します。」

臨海工業地帯の歴史

大竹コンビナートは1961年に三井系の4つの企業が誘致され、翌年の1962年に石油化学コンビナートとしては日本で最初に建設・誕生しました。(出典：化学工学会誌『化学工学』)

ここでは、もともと旧海軍の海兵団や潜水学校の校舎跡地といった国が所有していた広大な土地があったことから、その土地へ積極的な企業誘致を行い、現在の臨海工業地帯が形成されました。



大竹市内タクシー会社

(有)大竹交通 0827-52-5141
 (有)やまとタクシー 0827-52-4181
 (有)大竹タクシー 0827-52-3131

※予約等のタクシーの利用の詳細については、各タクシー会社へお問い合わせください。



亀居公園

広島城主福島正則が築城したといわれる亀居城跡を整備した公園です。春には約300本の桜が咲き、桜の名所として知られています。また公園内では石本美由起氏(大竹市出身)の作詞家生活40周年を記念して作られた「長良川艶歌」など9つの歌碑と記念碑で結ばれた遊歩道の散歩も楽しめます。

晴海臨海公園

晴海臨海公園管理棟 / 水曜、年末年始 TEL:0827-57-4333

瀬戸内海に面した、球技場等のスポーツ施設、遊具広場、デイキャンプ場などを備えた公園です。遊具広場のメインである「ロボボファクトリー」は、大竹の工場群をイメージした大型遊具で、この地域では最大級の規模を誇ります。



大竹港の歴史

大竹港は、戦時中は軍の重要な施設として、終戦後には引揚船の港として、利用されました。1945年12月に引揚援護局が設置され、引揚船としては、1947年1月末までの約1年間で219隻、410,783人が大竹港に帰還しています。大竹港における引揚業務は、1946年末をもってほぼ完了し、1947年1月31日に引揚援護局も閉鎖されました。

その後、大竹市が臨海工業都市として発展することに伴い、大竹港も整備が進み、2005年には、港湾整備が一定のかたちを整え、規模が拡大、瀬戸内海臨海工業地域の重要な工業地帯として水深11mの岸壁を持つ、5万トン以上の大型貨物船も乗り入れ可能な港として活躍しています。

【お問い合わせ】大竹市総務部産業振興課 TEL(0827)59-2131 / FAX(0827)57-0888
 ★注意：撮影は、交通ルールを守り、周囲の安全を確保した上で行ってください。